

社会医療法人社団陽正会 寺岡記念病院 …… 武田 昌



病院の概要

1. 診療科目
内科, 外科, 脳神経外科, 整形外科, 泌尿器科, リハビリテーション科, リウマチ科, 形成外科, 神経内科, 循環器科
2. 病床数
全病床数263床
一般病床211床, 療養病床52床
本館 2階急性期病棟41床 (ICU 8床, HCU 33床)
本館 3階外科系病棟53床
本館 4階内科系病棟53床
東 2階回復期リハビリ病棟34床
東 3階慢性期病棟30床
療養病棟52床 (医療型36床, 介護型16床)
3. 職員数
総数339名
常勤医師14名, 看護師・准看護師158名, 薬剤師 6名, 放射線技師 6名, 検査技師 6名, 管理栄養士 5名, 臨床工学技士 4名, 理学療法士14名, 作業療法士 8名, 言語聴覚士 6名, 診療情報管理士 2名ほか
4. 併設医療施設
腎センター, リハビリテーションセンター, 脳健診センター, てらおか訪問看護ステーション, てらおか居宅介護支援事業所
その他, 詳細はホームページをご覧ください。

医師確保の問題

現在, どの病院でも最大の問題は医師不足でしょう。新卒後臨床研修制度実施に始まった医局制度の崩壊と医師派遣機能の破綻が, 特に地方病院を直撃し, 現在の医師不足と医師偏在の状況を招いていること

はじめに

今年, 開設63周年を迎える寺岡記念病院は, 広島県福山市の北西部, 新市町にあり (市町村合併前は「芦品郡新市町」でした), 医師会としては府中市と福山市の北部を擁する府中地区医師会に属しており, いわゆる「中山間地域」をバックグラウンドとする病院です。

現理事長寺岡暉の父, 寺岡正がこの地に昭和21年11月に開設した「寺岡医院」が始まりで, 昭和26年に寺岡病院となり, 昭和55年寺岡暉院長のもと, 医療法人社団陽正会寺岡記念病院として新たな一歩を踏み出しました。平成16年に病院機能評価認定を受け, 平成18年に武田昌院長となり, 平成21年から法人が社会医療法人となりました。救急医療を中心に, 回復期リハビリ病棟, 療養病棟を擁する263床の, この地区の基幹病院として機能しています。

病院の沿革

昭和21年11月 診療所「寺岡医院」開設。寺岡 正院長
昭和26年 2月 「寺岡病院」内科・外科28床開設
昭和52年 2月 「医療法人社団陽正会寺岡病院」
昭和55年 5月 寺岡 暉院長就任
昭和55年 7月 「医療法人社団陽正会寺岡記念病院」
昭和61年12月 腎センター増築
平成11年 7月 療養病床開設
平成16年 2月 日本医療機能評価機構病院機能評価認定
平成16年 4月 電子カルテ運用開始
平成17年10月 開放病床開始
平成18年 2月 武田 昌院長就任
平成19年 5月 回復期リハビリ病棟開設
平成21年 7月 病院機能評価 Ver.5.0 (更新) 認定
現在に至る

は明白です。当院も医師確保に苦慮している病院の一つではありますが、現時点では基本は岡山大学を中心とした各大学病院医局との連携で医師の確保に努めています。

まず脳神経外科は、寺岡暉理事長の出身大学である東京大学と、鳥取大学の脳外科医局と古くから緊密な関係を保ち、常勤医・非常勤医の派遣や高度な手術・治療に関しての協力体制を築いています。さらに内科では、古くから研修医を受け入れてきた岡山大学医学部との関係から、旧第2内科、第3内科、第1内科から常勤医を派遣していただき、循環器内科も含めた多数の非常勤医とともに、現在の内科に要求される“総合的、全人的医療”と、“最新の専門的医療”の両輪を満たす形で、チーム医療に取り組んでいます。また、これも以前より関係の深い広島大学旧第3内科と連携して、神経内科診療を行っています。外科部門については岡大旧第2外科がベースですが、旧第1外科とのコンビネーションで日々の手術、診療を行っており、整形外科、泌尿器科ともに岡山大学医局からの常勤医による診療体制が確保されています。

しかしながら今後更に厳しくなるであろう医師の確保に関しては、今までとは全く違った新しい試みが必要とされていることは間違いありません。

病院のめざすもの

当院の新しい理念として「トータ

ル&シームレスケア：全人的で切れ目のない医療提供の推進」を定めました。急性期医療としての救急に大きな力を注ぎ、その後の「人間回復の医療」を切れ目なく繋いでいくことを最重点に、病棟再編に取り組んでいる途中です。救急医療以外では、糖尿病を中心とした生活習慣病の予防・治療に特に力を入れ、岡山大学旧第3内科との緻密な連携で早くから透析に取り組み、現在腎センターとして機能しています。また、「人間回復の医療」の為に重要な役割を果たすリハビリテーションにも重点的に取り組み、多くの療法士を擁したリハビリテーションセンターを運営しています。この地区（中山間地域）の状況を考えてとき、急性期医療のみに特化した病院運営では、地域住民のニーズに答えることは不可能です。都会型の機能分化した病院が多数ある状況は今後もこの地区では実現不可能であり、急性期医療から回復期医療へ引き継ぎ、更に社会復帰ないし療養介護にスムーズに移行できる体制の構築が必要とされます。

このことも含めて、病院の母体である社会医療法人社団陽正会は様々な取り組みにトライしています。昨年は府中市にある北川病院と当院の経営統合が行われ、今年に入って神石高原町立病院の指定管理者決定と、将来の病院機能再編も視野に入れた事業が行われました。いわば「陽正会グループ」と呼ぶべき病院群ですが、これを核に更に地域の他の医療施設との連携を図っていく必要が

あると考えています。

当院の昨年度の実績としては、延べ入院患者数86,185人（1日平均236.2人：病床稼働率89.8%）、延べ外来患者数113,026人（1日平均385.8人）、救急搬送患者数1,393人でした。当院は2次救急の輪番病院として機能していますが、現実には日々、1次・2次救急を含めて多数の救急患者に対応しています。現在では毎日内科系1名、外科系1名の当直医とオンコール当番が各系1名ずつ置かれ、ナースは2名当直体制を取っています。限られた人材でこの体制を維持し、慢性期医療までを行うことで、職員は疲弊していますが、この地域の医療を担う「最後の砦」として、全員で頑張っているところです。

おわりに

これからもますます地域の医療と地域の病院にとっては厳しい状況が続くでしょうが、同門の諸先生方と協力して少しでも前進していきたいと考えていますので、ますますのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、この度は伝統ある岡山医学会雑誌に当院の紹介をさせていただけましたことを深く感謝いたします。さらに貴会の益々のご発展を祈念いたしております。

平成21年7月受理
〒729-3103 広島県福山市新市町新市37番地
電話：0847-52-3140 FAX：0847-52-2705
E-mail：info@teraoka-hosp.jp
http://www.teraoka-hosp.jp